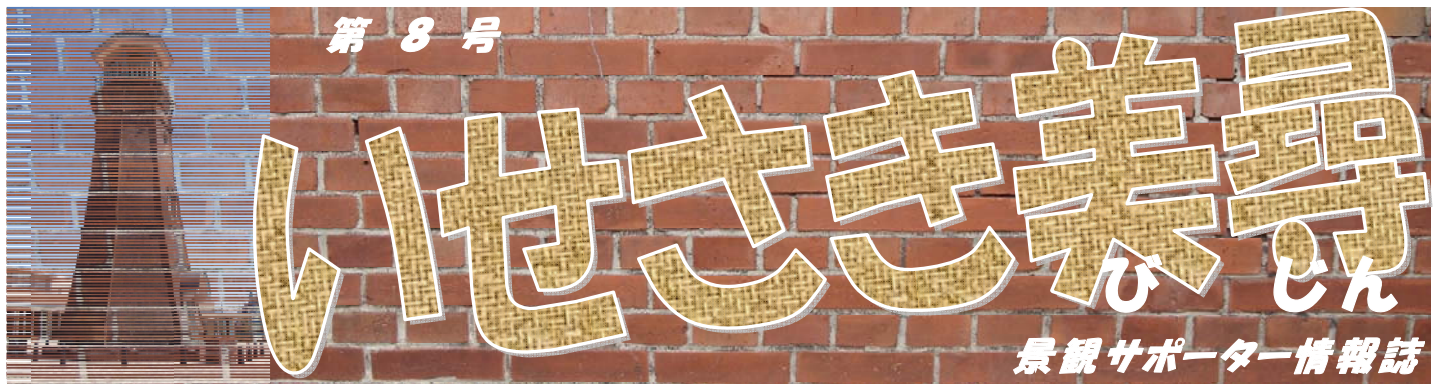




ぷろろーぐ

第1章《境地区歴史の路地裏めぐり》平成27年10月3日

平成26年度の境駅南地区のまち巡りで見学できなかった、まちの西側を歩きました。絹の歴史を今に伝える施設巡りと繭クラフト作りにも挑戦しました。

巡ったところ

群馬県蚕業取締所 → 🐢 → 佐波新田用水 → 🐢 → 公園 → 🐢 → 絹の館 → 🐢 → 木島織物 → 🐢 → 旧湯浅医院



木島織物所

第2章《景観先進都市視察「古河市まちづくり会社雪華」》

平成27年11月14日

今年の景観先進都市視察は、TMO株式会社雪華(ゆきはな)がまちづくりに携わっている城下町古河に行ってきました。

TMO (Town Management Organization)とは、その名のとおりまちづくりをマネージ(運営・管理)する機関のことです。

一部業務を紹介します。①都市開発に関する企画、調査、設計②市街地に商業の振興を図る為の経営、技術、販売、財務等に関する指導及び情報提供③お食事処、お休み処等軽食、喫茶店、飲食店の経営④雪華名を冠した民芸品、工芸品の開発、企画、販売など多岐に渡ります。



古河市内

第1章《境地区歴史の路地裏めぐり》

① 群馬県蚕業取締所境支所

- ・ 建築年：昭和2年
- ・ 構一造：鉄筋コンクリート2階建、陸屋根アスファルト防水
- ・ 設計者：群馬県建築技手(ぎて) 小林判治
- ・ 建物の特徴

直線を基調としたアールデコ調の重厚なもので、当時の公共建築の建築的嗜好や特性を良く伝えている。正面玄関ポーチと屋上パラペットの2段にせり出した造形は、存在感のある特徴的な意匠。

玄関入口の上部には、当建物と周囲の風景をモチーフとしたステンドグラスが設けられており、東武鉄道伊勢崎線や桑園の様子。また、遠く赤城山が描かれています。

- ・ 歴史的背景

明治20年以降、養蚕県であった群馬県では、蚕の伝染病である「コウジカビ病」や「微粒子病」を防ぐための検査所として、県内に13箇所の蚕種検査所が造られました。

境地区では明治39年に伊勢崎蚕業予防事務所境出張所が設置され、明治44年に群馬県蚕業取締所境支所に名称を変更。唯一現存している貴重な遺構で、当時の養蚕業の隆盛を伝えると共に、建築的嗜好や特性を今に良く伝えています。



蚕業予防事務所

② 佐波新田用水

- ・ 歴史的背景

大正11年佐波郡、新田郡において大干ばつが起こり稲作に大きな被害が生じた。采女(うねめ)村、境町、殖蓮村、剛志村、新田郡世良田村などの参加を得て、水田五百余町歩の所有者が一同となって大正12年3月12日、新田用水耕地整理組合を設立させ新田用水の施工に取り掛かりました。

(出典：群馬県佐波郡誌)

③ よしの記念公園

- ・ 旧境町時代の大地主であった吉野家の家屋敷があった所を吉野金三郎氏が平成12年町に寄付をしました。
- ・ 境の吉野家は、絹産業で財を成したと言われています。
- ・ 敷地寄付に当たり二つの条件(1、町民の憩いの場にする。2、氏神様は残す)があったそうです。

③ 絹の館

- ・ 歴史的背景及び概要



よしの公園氏神様

昭和12年新築の金子仲次郎邸であった。

木造2階建、数寄屋風造りで建坪はおよそ百坪。

合資会社金子輸出織物工場で伊勢崎銘仙などを織り、29歳にして東京三越や西欧各国、南アフリカ共和国などに輸出。伊勢崎銘仙の先駆者。

「富を残さず、徳を残せ」を信念とし、教育福祉に私財を寄付、昭和54年に工場と母屋のすべてを境町に寄付しました。



旧金子邸

④ 諏訪神社

・紹介

当社は天正年間（1573-1591）諏訪大社の分霊を奉遷（ほうせん）し、剛志村下武士に鎮祭（ちんさい）されました。天保9年（1838）、萩原の有志50余戸の賛助を得て、これを譲り受け現在地に鎮祭した事を初めとする。また、明治に稲荷神社、秋葉神社、八坂神社、大国神社、春日神社、八幡宮を合祀しました。

⑤ 有限会社木島織物所

・紹介

織物所とは「元機屋」と呼ばれ反物を織り上げる上でのプロデュース（制作全体を統括する場）。

・作業工程（概要）

1. デザイン



木島織物所

2. 材料系の仕入れ

3. 製錬（糸の汚れ取り）

4. 整経（糸野本数や長さを整える）

5. 染め（締括（しばり）・板締（いたじめ）・捺染（なっせん）など）

6. 織の準備

7. 製織（せいしょく）機折りのこと

8. 検査・仕上げ

9. 販売

・歴史

木島織物所が銘仙を始めたのは昭和15年で、当時は旧境町だけでも540件の銘仙の機屋がありました。



大黒天様

⑧ 旧湯浅医院

・建築年：昭和9年（昭和26年一部改築）

・構造：木造瓦葺き2階建、木造洋風医院建築（洋風建造物としての装飾性が多く施されている）。

・施工：木口組（前橋市芳町（三河町））、現在も営業が続いています。

大工は、今井氏（詳細不明）

・建物の特徴：

細やかな装飾性は排除され、旧帝国ホテルなどを設計した米国の建築家「フランク・ロイド・ライト」が好んだ水平線が強調された、すっきりとした近代建築としての外観の意匠と言えます。

洋館の面影を残す落ち着いた建築で、玄関の丸窓や薬局の木枠のガラス戸、ダブルハングの外窓や、2階寝室の前面と東側のバルコニーとパーゴラが特徴です。

方位の面から玄関の位置について考察してみると、辰巳（東南）の方位に玄関を設けています。このように、玄関を辰巳の方向に設けることは、昔から最も好まれる方角で「大吉」とされ、民家などでよく見受けられる構造といえます。



《 サポーター反省点 》

- 説明する施設毎の担当者が事前調査し説明できたことが、良かった。
- 時間割が忙しく、説明が不十分であった。
- 参加者とサポーターとの意見交換の時間があれば、より有意義であった。
- ハンドマイクの使用方法が不慣れで、事前練習が必要だった。
- 反省会は、当日が良いと感じた。

第2章 《 景観先進都市視察 「古河市まちづくり会社雪華」 》

古河でこんな事感じました！
早稲こいもきんぎょも！

城下町古河のまちづくり

「古河」という文字は南北朝時代から使われていたようです。江戸時代「古河城」は徳川将軍が日光東照宮参拝の折の宿泊場所として、また奥羽街道・日光街道の宿場町などとして発展しました。

現在も市内に武家屋敷の名残や商家の町割り、由緒ある神社仏閣があって、当時の風格が偲べます。

しかし、古河城は、明治7年に取り壊され、その後は大正年間の渡良瀬川の改修工事により、城郭の殆どが河川敷に取り込まれてしまいました。

そして、明治・大正時代は、製糸業が興り、明治前半まで古河の代表的な産業として続き、「糸の町」と呼ばれるほど活況を呈しました。

その様な経緯のなか江戸時代よりの歴史をもつ商家の保存再生などに携わる「古河TMO株式会社雪華（ゆきはな）」より、その活動について説明を受けました。



ぬたやの蔵

それは、中心市街地活性化法に基づくまちづくり会社(TMO)が、実践的な成果をあげている数少ない事例と思われます。

平成初期のバブル崩壊に伴い、衰退が顕著になりつつあった中心市街地の商業サービス。その対策を講ずべく古河市・商工会議所・地元商業者が組織して「まちづくり委員会」を設立。継いで平成9年8月には株主107名による(株)雪華が設立されました。

ホームページ開設「知っとこネット古河」(暮らしと観光の情報サ

イト)のお話はとても参考になりました。120の加盟店の店主自ら写真を撮って情報提供し、頑張っているとのこと。

また、バナー広告に取り組んでいる事も大変に参考になりました。

実践面では、江戸・明治・大正各時代に建築された石蔵、土蔵、レンガ蔵と110数棟の蔵を利用した「蔵美」のまちづくりに取り組んでいます。

- 1万人篆刻アートイベント
- 「蔵美」ご当地市
- 爽快自転車ツアー
- 蔵めぐりウォーキング等々

今回の視察はとても勉強になりました。

私達のまちに目を転じると、世界文化遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」である「田島弥平旧宅」は、のどかな養蚕農家で周辺も同様の農家群です。

古河とはまち並みの形成も異なりますが、まちづくりの取り組み方とか、仕組み作りなど大きなヒントを頂きました。

ありがとうございました。改めて時間的な余裕をもって訪問したいと思いました。

《七條》



まちづくりの印象



約十cm四方の石を敷き詰めた道路は地区や通り毎に個性的で風合いのある景観を形成していました。歴史博物館の周辺は緑豊かで森閑とし、ときおり通り過ぎる車のゴツゴツゴツとの音が耳障りでした。

また、敷石の表面に凹凸があり少し歩きににくく感じ、高齢者などが転倒しないかと少し心配しました。

《岡部》



古河市歴史博物館

古河視察の印象

古河市の取り組みは市民レベルで行っていることが注目に値します。市民レベルであれば利益追求は当然のこと。このことが躍動を生み、積極的に前進する推進力となっていることを強く感じました。官民一体となった時の強みを感じずにはられない体験でした。

ところで、我が伊勢崎市の現状を私なりに把握していることを述べてみたいと思います。

戦後の経済の発展にまちの役割がついて行っていないのではないかと。激しい世の中の変動に対してまちの変化はついていけず取り残されてしまっていると感じます。

まちの歴史をつくる前に社会が変動してしまい、まちに対する要求が激しすぎて取り残されている。その為、使用に耐えない旧市街地は捨て去られ、市民は新しい生活感に沿った市街地を形成する行動をとることに。

まちは社会と市民生活のシンボルであり、象徴。どこの市町村も同じような悩みを抱え苦しんでいます。では当市と古河市では何が違うのか？ まちの立地位置と生活条件が異なる。古河市ではまだ首都圏の通勤可能範囲に属し、公共交通の必要性が有るため戦後発達した駅前がまだ生きています。

しかし、当市は首都圏通勤圏でなく、周辺地域通勤となっているため駅周辺の利便性に薄く、その割に地価が高く市民の要求にそぐわないのではないかと思います。旧市街は歴史的地域でもあるので、これを生かすためには市民が生活する上での利便性や快適性を備えることが第一条件となるのではないかと。

また、毎日の生活で市民同士のコミュニケーションを取れることも必要ではないか。

このことから考えるとやはり伊勢崎市独自の地域性があり、この地域でなければならない生活条件を整える必要性を感じる。

市民一人一人の生活条件を可能な限り汲み取り、これを社会生活に生かすよう工夫することにより、快適で生き生きとした市民生活を営むことになれば、当市に生活することの“意義とはり”を生むことになろうかと感じます。

その為にはあらゆる機会に、社会の要望を汲み取るためにも景観サポーターの役割は重要ではないかと感じた次第です。

《家泉》



坂長中庭

(出典：坂長 HP)

鷹見泉石記念館の見学

雨の中、ガイドさんの案内で鷹見泉石記念館を見学しました。実は当市の観光ボラ

ンタリーガイドは「郷土の異才「鷹見泉石」を多くの人に知って貰うことを主目的に活動しています。」とのお話がありました。

渡辺崋山が描いた肖像画を示し説明を始められました。

泉石は古河藩の家老でしたが、免職後の隠居屋敷がこの記念館になっています。隠居後も蘭学者として多くの学問に通じ、要人・学者等と広く交流し文明開化の先駆者の紹介から、ガイドの心意気も伝わってきた。

《重田》



(出典：古河市 HP)

古河まち歩きで感じたこと

古河のまちを歩きながら感じたことは静かで趣のある歴史を感じるまちということでした。



古い建造物をはじめとして歴史を大切に守り、次世代に引き継ぐ努力を少しずつ心意気のある人たちが静かに守りながら推し進めています。

ひたむきに育てているという感覚が地味な活動の中に感じられました。目をこらすと地場の品物を扱う老舗の商店が歴史をたたえながら風情を保ち心の郷愁をそそるものでした。

そうした場にも時間があれば覗いてみたいと感じました。

歴史の表舞台に名を刻んだ人物

の話も分かり易く詳細な説明を受けました。

当時の日本の社会情勢に思いを馳せ「世界の中に於ける我が国の立場」という壮大な原動力を秘めているまちの趣がありました。

そうした痕跡が、時々随所に残照の如く感じ取れる見学で勉強になりました。又訪ねてみたいまちです。

《和佐田》

城下町古河まちのづくり

伊勢崎市景観サポーターの重要な年間行事の一つ「景観先進都市視察」が11月14日の土曜日に行われました。

市民、商工会議所、古河市が共同で出資する第3セクター方式をとっている「まちづくり株式会社_雪華（ゆきはな）」全国的にも珍しい運営を行っている組織で、古河のまち創りにどのように関わっているのかと興味がありました。

当日は、あいにくの雨模様で少し残念な気持ちを抱きつつ、およそ1時間半後古河に着きました。

街境にバスが差し掛かると、江戸風情の常夜灯が私達を迎えてくれ「古河に来た」と感じさせてくれました。市内では面的整備があまり進んでいないのでしょうか、車1台に若干の余裕がある程度の路地が街中に幾すじもありました。その多くが大小の石で敷き詰められた味わいのある通りで、それぞれに歴史的意味を持つものでした。

この街は古河城の城下町、また日光街道の宿場町。その歴史が今に受け継がれ、それをうまくまち造りに取り入れている事が分かります。

雪華が古河のまち造りに深く関わっていることが肌に伝わってくる視察でした。

《佐藤》



石畳の路地

編集後記



本号は「境地区歴史の路地裏めぐり」と「先進都市視察・古河市」を題材として発行させていただきました。昨年度に続き第2回目となる境地区のまちめぐりは、景観サポーターが案内役となり自分たちの街の歴史を紐解くものです。今回は島村の「みちくさ塾」様のお力をお借りし“繭クラフト作り”をイベントに加えさせていただきました。比較的簡単な題材をお願いしましたが、字際に作ってみると大変で、参加者の皆様も悪戦苦闘し無事作り上げていました。皆さんの顔は一様に笑顔となっていました。

また、古河市「まちづくり会社雪華」でまちづくり活動の紹介やガイドをしていただきました。国内でも珍しい組織の基にまちづくりに尽力されている事を興味深く受け取る事が出来、私達のまちの「まちづくり」の参考とさせていただければと感じました。改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。（佐藤）

景観サポーター情報紙「いせさき美尋」とは？

美尋の「美」→多方面から考察した美しいもの。「尋」→素晴らしい景観を尋ね求める。対象物の本質の探究。

景観サポーターは、伊勢崎の自然、歴史、地域文化、先進性等景観の大切さ・素晴らしさ・美しさを多方面から尋ね（美尋）、景観の価値を学び・発見すべく研鑽を重ね、その発表の場を「いせさき美尋」と名付けました。

発行／いせさき景観サポーター実行委員会編集部

『いせさき美尋』景観サポーター情報紙第8号

平成28年1月28日発行

連絡先／090-1252-2509（佐藤好彦）